

第 51 回新潟県小中学校 P T A 研究大会新潟大会の報告

弥彦小学校 P T A 会長 堀

平成 23 年 9 月 23 日に新潟テルサで開催された P T A 研究大会の様子を簡単にご報告いたします。開会式・閉会式の挨拶や祝辞は省略させていただきます。関連する写真はピンぼけばかりで見づらいと思いますが、ご容赦ください。

<アトラクション>

開会式前に、とても楽しいアトラクションが 2 つありました。

最初は、新潟市立内野小学校ブラスバンド部“THE☆ピース”の演奏です。ブラスバンド部の皆さんは、とても精力的に活動されていて、過去に全国大会にも何度か出場されるなど多くの実績があり、今年は西関東開会に出場されるそうです。

4 年生から 6 年生まで総勢 49 名で、ダンスや歌などのパフォーマンスも交えながら、カラフルな衣装と動きのある楽しいステージで観客を魅了しました。



もう一つは、新潟市立黒埼中学校の応援団による演舞です。結成されて 7 年目の本格的な応援団です。バンカラなスタイルで迫力満点の「黒中節」を聞かせてくれました。



＜実践発表＞

3つの団体より発表がありました。発表の概要について配布資料（囲み内の要旨）を基に補足を加え、記載します。

①新潟市立豊栄南小学校PTA

「児童数の減少に対応したPTA活動」 ～地域の力で学校を支えるPTA～

新潟市の北区にあり、阿賀野市と隣接する位置にある豊栄南小学校は、校区の集落を七つの里と呼び、地域との強いつながりのある小学校です。

地域の人々は、学校への協力を惜しまず、教育活動に多くの支援をしてくださいます。しかし、児童数・家庭数の減少によりPTA活動に対する保護者の負担感が増大してきました。そこで、PTA活動や組織の見直しを行い、保護者の負担軽減を図っています。

地域との強い絆を強固にしながら、「大切な地域の学校」を支えるために、PTAとしてどうしていくべきか、これまでの工夫や苦労・喜びをお伝えしたいと思います。

特色

- ・地域住民がPTAの賛助会員となり、学校行事に協力（児童のいない家庭のほぼ100%が賛助会員に）。年間500円の賛助会費がPTAの収入の約4割を占めるほど。
- ・小学校は田畑の真ん中にあり、人気のない通学路が多いため、地域全体で子どもたちを守ろうと、「青パト隊」がパトロールに当たっている。
- ・学校行事への協力：田植えやサツマイモ植え等の農業体験での指導。地域住民が運動会の競技参加、神楽（手踊り）の指導。廃品回収協力。稲刈り指導と収穫祭参加。



農業体験の様子

課題

- ・児童数減少（H7：221名→H23：65名）→PTA役員数も減らした。ただし、保護者は全てが同校卒業生で、祖父母もPTAとしての経験があることから地域全体の小学校に対する思いは強く、今後も地域の協力を得ながら活動を進める。

②新潟市立西内野小学校PTA

～地域とつながる「西っ子ふれあい広場」

10年前、形骸化しつつあった「文化祭」を何とか活性化しようと、「西っ子ふれあい広場」を始めました。その後、PTAの一大イベントとして定着し、10年が経過しました。今、私たち現役員は、全くゼロから立ち上げられた先輩役員の、熱い思い＝原点を振り返ることにしました。

10年前、図工の作品の展覧会が中心だった文化祭。当時の役員の方々が、もっと子どもたちと保護者がつながれるような文化祭はできないかという、素朴な疑問から出発しました。親子がもっとふれあえるようなコーナーを作りたい。保護者は動き始めました。初めは役員中心のコーナーで始めました。それが、各教室で、各学年の役員を中心としたふれあいになり、地域の方々にも呼びかけて、地域の人たちと保護者や学校が一体となった、「西っ子ふれあい広場」となり、協働の輪が広がってきたのです。これまでの「西っ子ふれあい広場」の取組と、私たちが考える将来像をご紹介します。

特色

- ・文化祭で行われる「西っ子ふれあい広場」では、色々な遊びや体験ができる20ほどのブースを保護者が設け、子どもが自由に訪問するスタイル。
- ・最初に始めた際は、初めての試みのため学校内での反対意見や準備での苦労も多かったが、地域住民の関心が思いのほか高く、参加に意欲的でスムーズに話が進んだ。
- ・開催に向けた打ち合わせはオープンな雰囲気作りに努め、疑問点はその日のうちに解決することで、全員が納得できるものになった。
- ・非常に盛り上がり、参加者の感想は、「楽しかった」「ふれあいの場が広がった」など、好感触。保護者同士の輪も広がった。



「西っ子ふれあい広場」のブース

課題

- ・年数を重ね、熱心に参加する地域の方が増える反面、保護者がそれに頼り切ってしまう、「学年広場」が取りやめに。
- ・ボランティア集めに苦労（保護者に「やらされ感」があったかも）。

課題解決

- ・保護者の参加意識を高めるため、しばらく中止していた「学年広場」を復活。

③新潟市立南区北部4校PTA

～白根北中学校区4校PTAの連携活動～

白根北中学校区4校PTAでは、学校側の「白根北中学校区小中連携事業」の活動に併せて、保護者の交流や連携・協力した取組を推進しています。

平成21年度までは、4校PTAの交流といえば、役員の懇親会のみでした。しかし、子どもの健全育成のためには中学校区PTAの連携した取組が必要と考え、22年度より連携した活動がスタートしました。例えば、白根北中学校支援サポーターへの3小学校PTAの協力があります。その他、保護者の養育力向上に向け、著名な講師をお招きしての「子育て講演会」があります。22年度は「発達障がい」に関する講演会を開催し、4校PTAで多くの参加者がありました。発達障がいの子への対応だけでなく、わが子への日頃の対応の参考となる内容でした。23年度は、4校PTAが交流を深めるために、フロアーカーリング大会を開催いたしました。

今後も4校PTAで協力した活動を行っていきたいと考えています。

特色

- ・4校PTAによる拡大学校保健委員会開催
- ・4校PTA定期会議開催
- ・学校支援サポーターとして、地域の人に中学校に気軽に訪問してもらい、現状認識促進
- ・子育て講演会の開催（「発達障がい」、「特別支援教育」等）
- ・4校対抗スポーツ大会開催
- ・各種イベントの準備には、少人数グループによるワークショップ方式で検討



4校PTAによる会議・情報交換
ワークショップ

【感想】

①、②の発表事例から、PTA役員だけでなく、地域住民をいかに巻き込んで参加を促すかがPTA活動活性化の鍵を握っていると感じました。弥彦小学校では既に、地域の方々の協力により様々な教育活動を実践していますが、PTA行事が縮小傾向の中、地域との繋がりが薄れてしまわないような取組を考えていきたいと思います。

弥彦村は小学校、中学校1校ずつですので、③の発表事例にあるような小中学校の連携については、既に様々な取組がなされています。しかし、PTA同士は情報交換の場が減ってしまったので、負担感を増やさずに密接に連携を進めるあり方を考えたいと思います。

<講演会>

講師 廣中邦充（ひろなか くにみつ）氏（愛知県岡崎市 浄土宗・西居院第二十一代住職）

演題 「A g a i n」 ～であい ふたたび～

「やんちゃ和尚」として知られる廣中住職は、「平成の駆け込み寺」と呼ばれる西居院にて、非行や引きこもり、虐待やDV（家庭内暴力）の問題を抱え、行き場を失っている子どもたちを常時15人前後、無償で預かっておられます。「命ある限り、子どもの心と体の居場所をつくりたい」との思いで、本当の父親のように全身全霊、体当たりの愛情で子どもたちに接し、子どもたちを社会復帰させる活動を続けておられます。

講演会では、会場を走り回りながら、非常にエネルギッシュにお話をされていました。お話の中で、多くの心に残る言葉がありましたが、聞き漏らしたこともありますし、ニュアンスを十分にお伝えするのが難しいので、エッセンスのみを下記にお示ししたいと思います。著書も数冊出しておられますので、詳細をお知りになりたい方は、そちらもご覧になって下さい。

【講演の概要】

- ・人間関係には、呼びかけとそれに対する返事、つまり「呼応」が大事だが、現代社会ではそれが欠けている。色々な問題が起きる中、大人が何をすればよいのか。
- ・「ありがとう」の言葉が何を与えてくれるか、それは「温もり」と「勇気」。これはPTAも一緒であり、温もりと勇気を与えるような活動が大切なのでは。
- ・西居院では全国から来た子どもたち14人が寺から学校、職場へと通っている。お寺の“卒業生”は845人いて、2541人がお寺へ入るのを順番待ちしている。時には、学級崩壊などで苦悩している先生方も救いを求めて訪れることもある。
- ・色々な「出会い」が人生を変える。親子の出会い、PTA役員としての出会い、子どもたちとの出会い、災害との出会いも。
- ・我が家のルール、家訓作りが現代では求められているのではないか。
- ・何か問題があると人のせいにしてしまう世の中だが（相手が悪い、学校が悪い）、子どもに関しては親の責任が大きい。ビジネスも子育ても「匂いを嗅ぎ取る」ことが大切で、子どもたちの叫びに早く気づいてあげなければ。
- ・子どもの苦しみ気づかなかった親が、気づくことで変わり、子どもをしっかりと受け入れるようになる。気づくためには、子どもの様子をしっかりと見つめることが大事。
- ・子どもたちを救うのは親しかいない。大人が目の中の現実から目を逸らし、逃げてはいけない。
- ・「三歩の距離」という言葉がある。これは、お節介すぎず、放任もしない、居心地の

良い距離感を保つことで、人間関係には「三步の距離」を保つ事が大事。「三步の距離」で温もりが伝わる。そのためには、寄り添う心（＝「一緒に」という心）を持つことが大切。そして、何かあったときに守ってくれる、という安心感を持てるような後盾（＝出会い）も必要。「寄り添う心」と「後盾」を対にした教育が求められている。

- ・人として生まれてくる事は、父母を縁として、梵天（空の上の方）より糸を垂らして、海底に沈んだ針の穴の中に糸を通すことくらい、稀なことである。親と子だけでなく、祖父母と孫、生徒と教師、PTA同士など、全ての出会いも同様。出会いに喜びの心を持とう。

- ・先生方も「教師」なんだという自信を持って、初めて担任を受け持ったときの気持ち、原点に戻って教育を。

- ・最後に、PTAへ向けてのメッセージ。

望んでPTA役員になった人ばかりではないだろうが、

I 私のお役を頂いた、という喜びを持とう

II 人様のお役に立つ人生を歩もう

III 人様の幸せを願おう

これが、PTAの原点であり、この気持ちを常に持とう。



☆ 来場者全員に対し、ご住職はご自分の携帯電話番号とメールアドレスを教えてくださいました。大きな苦しみを抱えておられるお子さん、親御さんがいらっしゃいましたら、直接連絡をしても構わない、ということでした。もし、ご住職と連絡を取りたい、お話を聞いて欲しい、という方がいらっしゃいましたら、先生方やPTA役員を通じて、あるいは直接、PTA会長までご相談ください。連絡先をお伝えします。